

開発合宿の 開催誘致に向けた 事業者説明会

開発合宿の開催誘致に向けた事業者説明会

- (1) 事業内容について
施策内容、事業者の皆様へのお願い等**
- (2) 誘致用ウェブサイト（作成中）について**
- (3) 今後のスケジュール（案）について**
- (4) その他（質疑応答）**

(1) 事業内容について 施策内容、事業者の皆様へのお願い等

開発合宿とは何か

主にIT企業の社員が
温泉やリゾート地などの宿泊施設に出向き
合宿のように寝泊まりしながら
集中的にソフトウェア開発や新規事業の
企画等を行うこと

開発合宿の開催を 立科町に誘致したい理由

- **IT事業者等を呼び込む接点を作りたい**
→ **テレワーク事業（企業進出型）への入口**
- **高原エリアの振興を図りたい**
→ **新規顧客層の取込、情報発信、関係人口増**

事業の流れ

【利用者】

利用 / 支払

【宿泊施設】



検索

■ ウェブサイト例 (町作成)



立科町の紹介

町からの支援

開発合宿ができる宿



予約情報

受取/貸出

【立科町】

総合観光センター / ふるさと交流館
機材(プロジェクター等)貸出

■ 宿泊予約サイト / 自社サイト



予約

【開発合宿プラン】

合宿環境に望む
条件・内容で宿が選べる
【価格帯、人数等】
+ 差別化【ペット可等】

利用者のメリット

- 開発合宿ができる宿が簡単に見つかる
 - 合宿に望む条件で複数の宿から選択できる
 - 機材レンタルに余計なお金が掛からない
- +アクティビティ!



事業者のみなさまの メリット



- 開発合宿の利用客（新規客層）を取込める
- 利用者から宿情報のウェブ発信が見込める
- 開発合宿用の機材を購入する必要がない

事業者のみなさまへ 貸し出す機材（予定）

- プロジェクター
- ホワイトボード
- 延長コード



- スクリーン



- その他



事業者のみなさまへ お願い

- 宿泊予約サイト/自宿サイトに
【開発合宿プラン】を作成
- お客様の利用時に
機材の受取・返却、アンケート回収
- Wi-Fi環境の整備

開発合宿の予約が入ったら

- 1 【開発合宿プラン】の予約受付
- 2 予約が入った旨を企画課へ連絡
(機材予約のため)
- 3 お客様チェックイン前に機材を受取
(総合観光センター)
- 4 チェックイン ⇒対応
- 5 チェックアウト⇒機材返却/アンケート回収

この事業の特徴

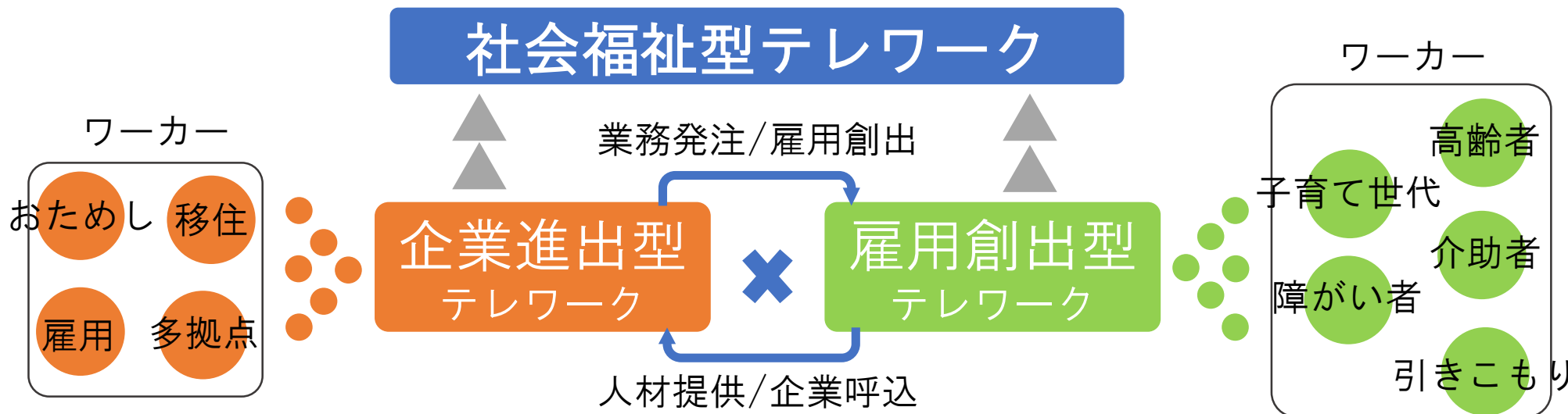
- 開発合宿の開催を支援する県内初の自治体
- 当町の特徴である高原エリアの振興へ
- 専用ウェブサイトは
雇用創出型テレワーク事業の
ワーカーOJT として作成



テレワーク推進事業

目指す姿 

2つのテレワークを並走させて、**社会福祉型テレワーク**の実現を図る



多様な人たち(子育て世代 ⇒ 障がい者及びその支援者 ⇒ 高齢者 ⇒ ニート・ひきこもり等へ展開)が、町のあらゆる場所で ICT を活用して仕事を通じた社会参加を果たす

テレワーカーの育成

雇用創出型
テレワーク

テレワーカーとして働くため
Office研修、ホームページ作成研修を開始
【登録人数10名】



(2) 誘致用ウェブサイト（作成中）について



株式会社 フィールドデザイン

代表取締役 宮下 義弘

長野県東御市出身
1982年生まれ

東京のWEBデザイン系の制作会社でデザインやコーディングを経験後、25歳でWEBディレクターに。2011年東京から地元の長野県東御市に拠点を移しWEBtiesの代表として独立。地元の東御ワインクラブの事務局を務め東御市のワインの発信や東御ワインフェスタで東御のワインのPR活動を行う。2015年10月21日に株式会社にして観光系のWEB制作会社として長野県を中心に、青森県、三重県、富山県、愛媛県、熊本県などの案件に携わる。2016年11月1日に臼井デザイン事務所の臼井を共同代表として迎え入れて株式会社フィールドデザインへ社名を変更。WEBだけでなくグラフィックや動画などの強化を図り現在に至る。



着地型ツアーサイト「VISIT長野県」



佐久穂町観光協会公式ホームページ



長和町観光協会パンフレット



スノーキャットツアー

(3) 今後のスケジュールについて

今後のスケジュール

3.26～ 参加申込開始（配布資料：申込用紙）

【事業者の皆様において、プラン作成・掲載】

3.31 webサイトのオープン（仮）

5月上旬 宿情報の掲載開始【随時更新】

5月中旬～ プレスリリース、広告展開

以降、定期的に事業見直しを実施

開発合宿とは何か

温泉やペンションで「開発合宿」 アイデア誘う **日本経済新聞**

2018年3月6日(火)

コラム (ビジネス)

2018/1/27 14:04

📌 保存 📧 共有 🖨️ 印刷 🌱 COME 🐦 Twitter 📘 Facebook その他 ▾

温泉旅館などに宿泊して仕事をする「開発合宿」が注目を集めている。課題を決めて取り組み、終了時に成果を発表する。日常業務から離れて集中し、開放感の中でアイデアを生む狙い。他部署の同僚とも交流できると社員にも好評。IT（情報技術）企業以外の業種にも広がりつつある。

カタカタカタ——。2017年12月。谷川岳麓の「ペンション木馬」（群馬県みなかみ町）にパソコンのキーボードの音が響いた。医師向け情報サイト運営のメドピアのITエンジニア11人が平日2泊3日を借り切り、黙々と作業する。



参考資料

日本経済新聞

2018年3月6日（火）

■ IT以外も計画

アイデア創出の場として合宿を社員に奨励する企業もある。クラウドソーシング大手のランサーズは年2、3回、5～10人単位で企画。きっかけは「業務に追われながらだと良いアイデアが浮かばない」との声が上がったこと。横井聡CTOは「会社が全額負担するが、慰労や福利厚生ではなく投資」と説明する。

ソフトウェア技術者の働き方を国際比較する同志社大学の中田喜文教授は「海外のIT業界で広がったハッカソンに似ている」と話す。プログラムの改良を意味する「ハック」と「マラソン」の造語で一定期間集中してアイデア創出やソフトウェアなどの開発に取り組む方法。米Googleなども取り入れている。

IT化が進み、隣の席の同僚ともメールでやり取りするなど、社員の交流が乏しい職場も少なくない。そんななか、IT業界以外も合宿での仕事に注目し始めている。「おんやど恵」の17年のプラン利用は11%増の約100件で「2割は化粧品や自動車などIT以外」（室伏学社長）だ。

リクルートマネジメントソリューションズ（東京・品川）が食品や医薬品、不動産など幅広い業種161社に「働き方改革の成果」などを尋ねたところ、労働時間の短縮などで改善はあるものの「業務効率・労働生産性の向上」「新事業・新商品開発」などは途上との結果だった。日常業務から離れ、仲間と効率的に新しいものを生み出す手法として合宿は広がりそうだ。

参考資料

日本経済新聞

2018年3月6日（火）

■宿・自治体が誘致に熱

宿も無線LAN（構内情報通信網）などIT環境を整えたり、専用プランを設けたりするなど開発合宿の誘致に積極的だ。1930年創業の山喜旅館（静岡県伊東市）は一般客より合宿利用が多い。1泊2食付き6630円。チェックイン前後も会議室を有料で貸し出す。「個室露天風呂の整備に比べれば少額投資で新しい客層が開拓できた」（山田幹久代表）。海外企業や商社、建設などの業種が利用する。

自治体も注目。地方創生のためのサテライトオフィス開発を支援する総務省の事業の一環で、松江市は企業の開発合宿を支援。17年4～9月には延べ20社102人分の交通費を負担し、古民家風オフィスを準備、旅館を紹介した。実際に進出企業も出始めており、市の定住企業立地推進課は4月以降、市独自事業で交通費の支給制度を準備中だ。